

贈答にまつわる包装文化に 動画や音声をプラス

紙商店から印刷業 さらにメーカーに転身

株式会社アイビーシーは大正12(1923)年、中央区日本橋堀留町で石井文庫紙店として創業し、紙製品の加工販売を開始しました。昭和36(1961)年に印刷事業者が多く集まる現在地に移転して株式会社石井文庫に改組、各種印刷機を導入して印刷業に転じました。



代表取締役の石井 啓一さん

次の転機は平成6(1994)年、社内にデジタルプリンティング部門を設置して印刷ソフトの研究開発に着手すると、平成9(1997)年2月、業務用掛紙・カード印刷ソフト「筆の達人®」を開発して、ソフトウエア・メーカーへと転身しました。この業態転換

を指揮したのが3代目社長の石井啓一さんで、創業90周年にあたる平成25(2013)年に現社名に改めました。

「印刷業のデジタル化が進んだ時期に受注印刷業の先行きに不安を覚え、印刷物の内製化システムを提供するメーカーへの転身を決意し、オンラインのサービスを提供したいと考えるようになりました」

ギフト業界の長年の悩みを解決

「筆の達人®」シリーズは贈答品の掛紙やメッセージカードを作成できる印刷・編集ソフトで、百貨店や大手スーパーなどで利用されています。掛紙(のし紙)の表書きや名入れは毛筆を使い、楷書で書くのが正式ですが、旧家の姓や名、地名などは慣わしがあり、JIS規格外の文字(外字や異体字)が必要とされ、対応が難しいとされてきました。

そうした悩みを解決したのが「外字の達人®」。人名に用いられる約4700もの外字や異体字を書体や書風で分け、のし紙・掛紙のデザインを自由に選んだり、文字のみならず、音声・画像付きカードも付けられます。しかも店頭やサービスカウンターだけ



【例: 楷書体 なべ】

【例: 教科書体 さい】

でなく、ネットショップや配送センターなどでも印刷でき、スマホやタブレットにも対応しています。

「JIS規格の内字や規格外の外字の区別を意識せずに旧字体や異体字を選べるのが特徴で、たとえば斉藤の「ざい」は約40字、渡辺の「なべ」は約80字の異体字から選べます。また、販売履歴に基づいて個別に販促メールを配信できる『絆の達人®』とも連携が可能です」

現在のユーザーは大手業者が中心ですが、今後は商店街やショップなど、小売店のカジュアルギフトへの普及を図っていくそうです。

多様化する贈答行動に いち早く対応

「筆の達人®」は業者向けのソフトウエアですが、ウェブ版をリリースしたところ、のし紙や掛紙を作成す

「外字の達人®」を使えば、旧字体や異体字も簡単に入力できる



スライドショー等を読み取れるQRコードを貼付けて、感動的なメッセージカードをつくることできる

るだけでなく、オリジナルのメッセージカードを作成し、商品に添えられるカスタマイズ・サービスを利用する購入者(贈る人)が増えました。

石井社長はそうしたユーザーの贈答行動の変化を踏まえ、ネットショップなどで商品を購入した顧客が自分で動画やスライドショーを簡単に作成し、そのQRコードをメッセージカードに貼り付けられるクラウドサービスを新たな包装文化として普及させるため、令和2(2020)年夏から提供する準備を進めています。

「これを機にB to BのビジネスモデルをB to B to Cに進化させ、パッケージ・ソフトウエア・メーカーからアプリケーション・サービス・コンテンツプロバイダーへのイノベーションを考えています」